（1）記念講演
（2）演題「　生きながら　生まれ変わる　」
（3）講師　米良　美一　氏

（4）内容

米良美一氏は宮崎県西都市出身である。代表曲『もののけ姫』のテーマをご披露いただいた後で、時折歌唱を交えながら、ウィットに富んだたくさんのお話をしてくださった。

米良氏は一期一会を大切にし、全てに感謝すること、許す寛大さや他者への思いやりを重要視されている。曰く、「自分は講演の度に新しい扉を開けている」と。また、「自分の使えるものは全て使う『語り部』である」と。

幼少期より難病と闘いながら、ご自分の役割として「自己を見つめることで自己開示する」ことの意義に気付かれた。『もののけ姫』で一世を風靡すると、その強烈な光と影とを実感される。世間のほとんどは善意でできているが、一人一人は自分のプライドを保つために、矛先を他者へと向けてしまうことに失望の念を抱かれる。

かつての米良氏の講演会は「自分の懺悔の講演会」であったそうである。自分が自分自身を誤解されていたと。それが、十年ほど前に新たに患った病気をきっかけに、多くの人の助けで復活し、自分の役割、すなわち「自分の話をすること」の意義を再認識される。

『手紙』という曲を披露された後、「愛する存在、自分がこの世を去るとき、その対象に対して思いを伝える」意味をお話しされた。また、故坂本九氏のお名前を挙げられ、「坂本氏のような歌い手になりたい」と話され、『心の瞳』を歌われた。

年々歌の概念が変化してきており、人々の日本語に対する意識が希薄になってきていることを憂いながら、そのことを子供たちに伝えることのできる我々「先生」たちに向けた、エールを送ってくださった。

『花は咲く』の披露の後、本（フランスの哲学者アラン著「幸福論」）との出会いから、「笑顔」と「学ぶこと」の大切さに気付かれたと語る。「笑顔は努力で生み出すもの。口角が下がらないように毎日鏡で特訓している」とご自分のことを伝えてくださった。

『ヨイトマケの歌』で講演を締めくくられた。

第１Ａ分科会
「教育課程に関する課題」

指導助言者
寺田　菜穂子
宮崎県教育庁義務教育課
主幹

平山　十四郎
宮崎市立木花小学校校長

提言者
時津　太滋
長崎県平戸市立根獅子小学校

米田　豊和
熊本県山都町立蘇陽中学校

森　誠四郎
宮崎市立宮崎西小学校

研究主題
１　目指す児童像の実現に向けた教育課程の改善～カリキュラム・マネジメントの推進を通して～
２　ふるさと蘇陽を誇り、夢の実現を目指す生徒の育成～地域の人材や教材を活用するための教頭の役割について～
３　コミュニティスクール制度の導入と充実について～地域と一体化する学校運営における教頭の役割～

「１」について
①　取組事例
ア　教職員の意識を変えるための取組
イ　教育活動の改善を図るための取組
ウ　カリキュラム・マネジメントを日常化するための取組
②　成果○と課題●
○　子供たちの実態に合った活動を取り入れたことにより、主体性の向上につながった。
○　カリキュラム・マネジメントの主体が職員になり、能動的に仕事に取り組むようになった。
○　保護者に総合的な学習の活動のねらいを伝えたことで、より効果的な活動につながった。
●　全職員で振り返る時間を確保することと働き方改革との両立を図る。
●　教頭ではなく、ミドルリーダーがリーダーシップを発揮できるように、人材育成の視点で教頭が働きかけていく。

「２」について
①　取組事例
ア　花いっぱい運動、赤牛給食等、地域の人材や教材の積極的な活用
イ　総合的な学習における山都町 SDGｓ事業との連携強化
ウ　教頭のリーダーシップ
②　成果○と課題●
○　花の栽培や食育授業に生徒が主体的に取り組むようになった。
○　町の SDGｓ事業と連携したことで、総合的な学習の探究的な学びが充実した。
●　地域との連携・協働をより一層活性化していく必要がある。
●　教頭のリーダーシップを発揮するため、役割の明確化を図る必要がある。

「３」について
①　取組事例
ア　学校運営協議会の導入状況と委員の構成について
イ　学校運営協議会や地域学校協働活動等との窓口としての教頭の役割について
②　成果○と課題●
○　学校運営協議会の会を重ねるうちに、制度の目的や意義について地域の理解が深まってきた。
○　教頭の役割として、学校運営協議会が動き始めるための初動を起こすことができた。
●　テーマや課題に応じて、部会を設定する必要がある。
●　職員の異動があっても、次年度以降も地域と連携した活動が行えるように地域が主体となるシステムを構築する必要がある。

指導助言

提言１について、カリキュラム・マネジメントを全職員で取り組むことで、職員の主体性が見られるようになり、『働きがい改革』につながっている。今後もより充実した取組を進めるために、他教科や他学年とのつながりを考えること、必要となる地域の人材や資源を効果的に組み合わせること、教育課程の実施状況に応じてＰＤＣＡサイクルで見直すこと、カリキュラム・マネジメントの３つの側面を意識しながら進めていくことが重要である。

提言２について、山都の資源、地域の方のあたたかさ、魅力のつまった取組の発表であった。ふるさとをみつめ、今の自分の立ち位置から過去・現在・未来の視点をもたせて考えることで、未来の自分に思いをはせ、夢の実現を目指す子供を育成してほしい。

提言３について、学校運営協議会の取組が上手くいっている学校は、新規ではなく、今ある活動の見直しを図っている。教育課程に学校運営協議会の日程等を入れこみ、確実な引継を行うことで、組織的な対応ができるよう工夫する。

総括について、自校だけでは育成できない力を教頭会で協力して育てていこうとする取組事例がいくつか見られた。教頭の仕事は膨大になりがちである。全職員で社会と学校がつながる体制づくりを進めてもらいたい。

第１Ｂ分科会
教育課程に関する課題

指導助言者
矢野　義人
　宮崎県教育委員会　義務教育課主幹
田原　理恵
　宮崎市立宮崎西小学校　校長

提言者
益田　亮
　大分県佐伯市立米水津小学校
小野　しのぶ
　佐賀県佐賀市立東予賀中学校
倉田　和也
　宮崎県都城市立高城中学校

研究主題
１「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた極小規模校における授業改善～ガイド学習を通してめざす子どもを中心に捉えた授業づくり～
２ふるさと「さが」を協働でつくる個性と創造性に富む人づくりを目指した教育課程～佐賀市の教育施策基づく小中学校の取組～
３地域の特色を生かした学ぶ環境づくり～学校運営協議会における教頭の関わりを通して

「１」について
１主題設定の理由
２研究のねらい
⑴極小規模校において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業展開
⑵教師の負担軽減を考慮した複式学級での授業づくり
⑶極小規模校での学びに自信と誇りをもつ子供の育成
３研究の経過
４研究の概要
⑴前任校の概要
⑵前任校の研究（１年次）
①ガイド学習の導入とその背景
②本校におけるガイド学習の具体
③１年次研究を終えて
⑶前任校の研究（２年次）
①教師の出番の再整理
②ガイドシートの再開発
③必要な情報を取り出す環境整備
④２年次研究を終えて
５研究の成果と課題
⑴主体的・対話的で深い学びの実現
⑵教師の負担軽減
⑶自己指導能力へつなぐ力の向上
６指導・助言
・小規模校のデメリットをメリットにしている。
・児童の「主体的・対話的で深い学び」を実現させるという課題意識が明確であり、全職員で目指している。
・児童が教師の課題意識を共有している。→児童が目指す自分の姿が見えている。
・教頭として…職員全員で先進地視察→すべての学校の参考になる取組。

「２」について
１主題設定の理由
２研究のねらい
３研究の経過
４研究の概要
⑴第４次佐賀市教育振興基本計画
①基本目標
②基本方針
ア教育・学習の縦軸をつなぐ
イ教育・学習の横軸をつなぐ
③目指す子ども像
ア佐賀の歴史や文化等を学ぶことで「故郷を誇りに思い愛着をもつ心情」をもつ子ども
イ知識・技能を習得し活用する「基礎学力」をもつ子ども
ウ社会をよりよく生きるための「倫理観・社会常識」をもつ子ども
④佐賀市の特色ある取組
ア教育・学習の縦軸をつなぐ
・幼保こ・小連携の取組
・小中一貫（連携）教育の取組
イ教育・学習の横軸をつなぐ
・「いじめ・いのちを考える日」の取組
・市民性を育む取組
⑵各地域での取組
山間部・中心部・沿岸部それぞれでの取組
①目指す子ども像
②佐賀市の特色ある取組
５研究の成果○と課題●
○一つの教育の基本方針や、目標に向かって教育課程を展開するなかでも、地域や学校の特色を生かした教育課程の展開が可能であると明らかになった。
●学校間での情報共有をより活性化させるような協力体制を整える必要がある。
６指導・助言
・どの地域で生まれ育っても、知・特・体のバランスの取れた質の高い義務教育を受けられるように
・義務教育の９年間を見通した教育課程、指導体制、教師のあり方について一体的に考えるように
・児童生徒が多様化し学校が様々な課題を抱える中にあっても、義務教育において誰一人取り残さないように

「３」について
１主題設定の理由
２研究のねらい
３研究の経過
４研究の概要
⑴地域の特色を生かした学ぶ環境づくりに関わる教頭の具体的役割について
①学校運営協議会の事務局として
②地域と学校をつなぐ
⑵持続可能な学校運営協議会運営のしくみづくりの在り方について
①地域コーディネーターの設置
②学校運営協議会の活動の教育課程への位置づけ
③学校運営協議会のあり方の工夫
５研究の成果○と課題●
○教頭が学校運営協議会の調整等の役割を果たすことで、学校と地域がつながりやすく、地域の特色を生かした環境づくりに寄与することができた。
●地域コーディネーターを各学校または中学校区に配置する必要がある。
●教頭の職務のスムーズな引継のためにも、教頭の役割をマニュアル化することが必要である。
６指導・助言
⑴地域の特色を生かした学ぶ環境づくり
・教頭が学校運営協議会との関りにより、地域と教育課程をうまく調整
⑵持続可能な学校運営協議会運営のしくみ
・地域コーディネーターの設置
・教育課程への位置づけ
・学校運営協議会のあり方の工夫

第2分科会
「子どもの発達に関する課題」

指導助言者
酒匂　美貴子
宮崎県教育庁生涯学習課
副主幹

押川　由美恵
宮崎県西都市立穂北小学校
校長

提言者
床島　光
福岡県筑前町立三並小学校

座間味　浩二
沖縄県宮古島市立鏡原中学校

淵上　博司
宮崎県延岡市立南小学校

研究主題
1　児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫～教職員の参画意識を高める教頭のかかわりを通して～
2　児童生徒の豊かな人間性の育成～児童生徒の自主的な活動に繋がる取り組みから～
3　地域との連携を深め、地域の教育力を生かすための教頭の役割～コミュニティ・スクールの取組を通して～

「1」について
①　取組事例
児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫
ア　授業における指導方法の工夫
イ　異年齢集団による諸活動の工夫

②　成果○と課題●
○　児童の自己肯定感を高めることを意識して従来の教育活動の見直し工夫したことで、児童の自己肯定感の向上が見られた。
○　児童の自己肯定感を高めるという目的や活動を工夫することの必要性等を共有した上で実践したこと、工夫した効果を実感できるように具体的な子どもの姿をもとに評価したり、ねぎらったりしことで、教職員の参画意識に高まりが見られた。
●　教育活動を通してめざす子どもの姿、教師の姿を明確化し、評価を数値化することで、今後の組織マネジメントに活かしていくこと。

「2」について
①　取組事例
ア　教育委員会や外部機関との連携したキャリア教育
イ　主体的に取り組むための学級・学校の自治能力の育成
ウ　地域と連携したIT部の実践
エ　チャレンジ活動

②　成果○と課題●
○　生徒らに育てたい資質能力が身につき、向上が見られた。
○　これまで受け身的だった活動に自分たちで向き合うことの楽しさを感じるようになり、活動への意欲向上にも繋がりつつある。
●　事業所との内容や取り組みの深化についての協議の時間確保が難しい。
●　委員会や学級において取り組みに対する温度差がある。

「3」について
①　取組事例
コミュニティ・スクール全小学校実施による成果と課題についての洗い出し
ア　実態調査
イ　教頭としての役割
ウ　学校運営協議会についての情報発信

②　成果○と課題●
○　情報を教頭同士で共有できたことで、今後のコミュニティ・スクールの方向性や実践内容について共通理解を図ることができた。
○　各校において特色ある教育活動に努めることができた。
●　家庭や地域からの積極的な協力や支援、情報発信について協議していく必要がある。
●　地域と家庭と学校が手を取り合ってお互いに支え合う関係性を構築していくための学校運営協議会の在り方を考えていく必要がある。

指導助言
・　持続可能な取組になるように、共通した思いを大切にする必要がある。
・　全職員が同じ体制で指導できるようにする必要がある。
・　子どもの生き方が変わる時代である。他の価値観を認められるようになることが重要である。
・　インクルーシブ教育のさらなる充実を図る必要がある。

第３分科会
「教育環境整備に関する課題」

指導助言者
矢括　尚義
宮崎県教育庁教職員課
主幹

日髙　政志
宮崎県日向市立財光寺南小学校校長

提言者
横山　浩之
鹿児島県阿久根市立脇本小学校

佐々木　貴
長崎県対馬市立豆酘中学校

田中　寿幸
宮崎県日南市立南郷小学校

研究主題
１　教育的環境整備における教頭の役割はどうあるべきか～ＩＣＴ機器の整備と活用の充実～

２　教育の情報化に対応した教頭の関わりと魅力ある学校づくり～ＩＣＴの効果的な活用による業務改善を通して～

３　学校・家庭・地域が連携した安全・安心な学校づくり～情報機器の効果的な運用と学校運営協議会等と協働する防災への取組～

「１」について
①　取組事例
ア　学習者用端末の整備と活用推進の取組
イ　ＩＣＴを活用した授業実践
ウ　ＩＣＴ活用による業務改善
エ　ＩＣＴ環境整備における教頭の役割

②　成果○と課題●
○　ＩＣＴ機器の活用により、子供たちの学習を広げることができた。
○　子供たちが学習方法を自分で選択でき、個別最適な学習の機会が増えた。
○　メールシステム使用により、連絡に割く時間が大幅減になった。
●　機種の違いや契約条件の違いなどが、機器の整備に課題がある。
●　デジタル教材とアナログ教材の利用配分については今後授業で検証していく必要がある。

「２」について
①　取組事例
ア　Ｃ４ｔｈの会議室・掲示板を活用したペーパーレス情報共有
イ　行事予定の入力
ウ　Google ドライブの活用
エ　一斉メール・欠席遅刻届システムの導入
オ　ロイロノートやGoogle Forms を活用したアンケートの実施

②　成果○と課題●
○　ＩＣＴの活用が公務の効率化や軽減につながり、業務改善になっている。
●　若手職員とベテラン職員をＩＣＴの活用を通して交流していく要がある。
●　更なる教育ＤＸを進めていくためにも市町を超えたつながりのある環境を整備していかないといけない。

「３」について
①　取組事例
ア　危機管理における情報機器の効果的活用
イ　地域住民と連携した効果的な取り組み事例と分析
ウ　学校運営協議会等と協働した効果的な取り組み事例と分析

②　成果○と課題●
○　危機管理について、教頭としてどのように関与すべきか学び合うことができた。
○　他校の教頭が当事者意識をもって出し合った意見や考えが、企画に反映され、同僚性や協働性が発揮された。
●　学校の実情に合った取り組みを継続する必要がある。
●　管理職がリーダーシップを発揮し、校内体制や家庭・地域との連携体制を整え続けることが重要。

指導助言
・　どのような場面・方法で目指す子供像に繋げるかデジタルの使い分けやバランスの見極めが大切である。
・　ＩＣＴ機器の活用が、業務改善につながった成果を発信することで今後につながっていく。
・　危機管理の５つの過程から危機管理体制づくりを行政や地域と連携し現状を明確にしておく必要がある。
・　自分の学校で実践してきたことが当たり前のようで、当たり前でないことを肌で感じ、新しい選択肢を広げる研修会にしてほしい。

第４分科会
「組織・運営に関する課題」

指導助言者
中村　敏彦
宮崎県教育庁生涯学習課
課長補佐

川島　博嗣
宮崎市立那珂小学校校長

提言者
那須　亮作
宇土市立宇土東小学校

坪根　恭平
大分市立鶴崎中学校

興梠　晋
美郷町立美郷北義務教育学校

研究主題
１　全職員参画の組織づくりを推進するための教頭の役割～一人一人の良さを生かし、みんなでつくり上げる学校をめざして～

２　地域とともに歩み続ける学校であるための教頭の役割～本場鶴崎躍大会の取組を通した持続可能な連携をめざして～

３　義務教育学校の特色を効果的に生かした学校運営～十一年間の連続性のある学びを支える組織つくり～

「１」について
①　取組事例
ア　ミドルリーダーの役割と育成
イ　若手職員のやる気を育てるフレッシュ部会の定期開催
ウ　地域学校協働活動としての栽培活動

②　成果○と課題●
○　学年主任や各部長のミドルリーダーを中心とした運営を行うことで学校が有効に機能してきた。
○　フレッシュ部会で話し合ったことを校内研修に還元することで職員のやる気につなげることができた。
●　地域の教育力を学校にどのように取り入れていくか考える必要がある。
●　ミドルリーダーを中心とした学校運営を継続・改善していくことが課題となっていく。

「２」について
①　取組事例
ア　緊密な地域社会との連携
地域行事における連携
イ　PTA との連携～保護者の協力体制の確立
教職員の地域行事の協力体制の確立
ウ

②　成果○と課題●
○　地域一体となる行事を通して、生徒の活躍を各方面に発信できた。
○　教頭として、分掌担当職員を支援するための既知を得た。
●　教職員の参画意識の向上を図る必要がある。
●　地域との調整や準備を担う上での工夫。

「３」について
①　取組事例
ア　幼・小・中の連続性のある学び（生活科・総合的な学習の時間の地域学習）
イ　学年を４段階のステージに区切った意図的・計画的な活動の実施の工夫

②　成果○と課題●
○　義務教育学校の特色を生かした学校運営を行うことで十一年間の連続した学びの展開ができた。
○　教頭のリーダーシップにより、学校間で実践例を共有することができた。
●　前期課程における教科担任制は業務分担や業務内容の見直しを進めていく必要がある。
●　全校体制の取組となるように、研究主題や研究内容と連動させる。

指導助言
提言１
全職員参画の組織つくりを推進するため、ミドルリーダーを育てつつ、また若手職員も自信を持って意欲的に校務にあたれるような工夫がされていた。「学校教育目標」達成のために２つの「共通実践事項」を掲げ、「全ての教職員の基本的資質と専門性を生かし教育活動を推進していく」と、研究のねらいにもあるように、きめ細やかに職員一人ひとりに寄り添い、適切な助言等行い、教頭としての役割を果たしている。

提言２
地域の伝統芸能の取組を通して、持続可能な連携をめざすために教頭としての役割を明確にして精力的に地域と関わる姿に多くの教頭先生方は元気をもらったのではないだろうか。その伝統芸能についての歴史や背景・活動の意義・目的を職員にどのように理解させ、地域行事への参加意識を向上させるか、教頭としての手腕が問われる。

提言３
提言発表校の義務教育学校開校当時に校長をされていた指導助言者から貴重な話が聴けた。当時の教職員のチームワークの良さ・業務の効率化を図ることでより高まった職員のワークライフバランスの充実度等、義務教育学校の特色を効果的に生かすための組織の在り方を他の学校へ発信できている。

第5分科会
教職員の専門性に関する課題

指導助言者
石川優子
宮崎県義務教育課長補佐

甲斐寿尚
日南市立榎原小学校長

提言者
深川　治孝
佐賀県神埼市立千代田東部小学校

田村　聡
福岡県北九州市立尾倉中学校

長友　智子
宮崎県新富町立新田中学校

研究主題
1教職員の指導力向上を図るための教頭の役割
～具体的取組と体制づくりの工夫～
2コミュニティースクールを基盤とした地域との協働
～幼・小・中・高・地域との連携における教頭の関わりについて～
3教職員のＩＣＴ活用能力の育成を図るための教頭としての手立て
～校内研修・授業改善の取組を通して～

「1」について
①取組事例
ア　教職員の指導力向上に係る意識調査を基にした課題把握と解決策について
イ　指導力向上についての取組と体制づくり
教職員の意識調査を基に教員の指導力向上や体制づくりに関する教頭の役割についての取組
②成果○と課題●
○　意識調査により、教職員の経験年数で感じている困難さや課題の違いを明らかにすることができた。
○　教頭自身が、得意分野を生かして教職員に積極的に関わることにより、次世代のリーダー育成に寄与することができた。
●　意識調査によって見えてきた教職員が抱える困難さや課題を解決するための取組や体制づくりを基に、教頭の役割をより明確にする必要がある。
●　各校の教頭が連携を更に強め、指導力向上に寄与していく必要がある。

「2」について
①取組事例
ア　コミュニティースクールを基盤とした各機関等との連携についての取組
イ　幼・小・中・高・地域との連携を取りながら、児童生徒のシビックプライド（地域を愛する心）を養うための取組
②成果○と課題●
○　幼・小・中・高・地域が同じ目標・目的に向かい進むための指針を提案し、理想とする子供像が明確になってきている。
○　学校運営協議会やＰＴＡと協働することにより、「社会に開かれた教育課程」の実施に向けた取組を行うことができた。
●　地域力向上と保護者の地域に対する既存意識の高まりを促す意味でも、「学校行事と地域行事の協働」を核とした協議の推進を行う必要がある。
●　小・中の連携を密にし、教育環境の接続が必要である。

「3」について
①取組事例
・ＩＣＴ活用に関する能力を高めるための取組
ア　町教頭会での情報共有に関する取組
イ　しんとみ学力・授業力向上推進リーダー研究会に関する取組
ウ　スキルアップ研修に関する取組
②成果○と課題●
○　ＩＣＴ関連の研修への斡旋、受講を促したことで、ＩＣＴ活用能力を育むことができた。
○　ＯＪＴを意識しながら、活用促進のための場を設けたことで、ＩＣＴ活用向上を図れた。
●　選択研修受講の際に、研修のねらいについて、助言を行い、より成果を見出せるようにする必要がある。
●　職員のＩＣＴスキルを把握し、互いの専門性向上に繋げる必要がある。

指導助言
「1」について
各学校規模において、教職員の実態把握を基に、指導力向上に繋げた取組は、教頭職の大きな役割であり、数値を基にした取組は、他の教頭らの参考になる。
「2」について
教頭職におけるコミュニティースクールの運営について、大変さがある中、全国で５２％の導入が進んでいる。調整業務がある中、幼・小・中・高の連携を、育てたい子供の姿を共有しながら、進めることで多くの成果が上げられている。しかし、教員自身が価値を理解していない部分もあるので、取組を継続しながら、教員への理解も進めてほしい。
「3」
教頭会による情報交換や先進事例の活用を随時進めながら、キーマンとなる教員の発掘も行っている。教育のＤＸ化を進める中で、苦手意識をもちがちな教員もいるが、働き方改革に繋がること。さらには、教頭の働き方改革に繋がることを意識しながら、取り組んでいく必要がある。

第５Ｂ分科会
「教職員の専門性に関する課題」

指導助言者
花房　英晴
宮崎県教育委員会教職員課
副主幹

大迫　拓也
宮崎県宮崎市立住吉南小学校
校長

提言者
磯部　幸代
沖縄県竹富町立大原小学校

濱田　浩司
鹿児島県枕崎市立桜山中学校

岩切　里栄子
宮崎県宮崎市立赤江東中学校

研究主題
１　教職員の資質・指導力向上を図るための教頭としてのかかわり方について～教職員の育成や参画意識を高めるための取組を通して～

２　小中連携を通した教職員の資質向上のための教頭のかかわり～自ら学び　お互いを認め　高め合う　児童生徒の育成を通して～

３　教職員の危機管理意識の向上と学校安全に向けての対応力の育成～組織として活動するための教頭としての関りについて～

「１」について
①　取組事例
　地区の特性や教職員の構成を踏まえ、子供たちや保護者・地域の期待に応えられる魅力ある学校つくり
ア　教職員の資質向上に資する取組
イ　教職員の参画意識を高めるための取組
ウ　その他（ＩＣＴの活用や校務支援システムの共通理解等）

②　成果○と課題●
○　教職員の負担感に対する具体的なかかわり方や支援等の方向性を見通すことができた。
○　校内研修等での互見授業や他県での先進校視察等を通して、教職員の資質・指導力向上を図ることができた。
○　教頭として、ベテランと若手とのそれぞれの良さを活かすための手立てや助言を行い、学校経営への参画意識を高めることができた。
●　時間確保や更なる「働き方改革」への取組を進めていく必要がある。
●　地区全体での情報共有や連携をさらに密にしていく必要がある。

「２」について
①　取組事例
　中１ギャップや職員間の相互理解・連携意識を高めるため、小中学校の職員をまなび班、こころ班、からだ班の３つに分け、それぞれの班活動で共通実践や交流、合同での取組を決めて実践し、課題解決し、目指す姿に近づけるための取組
ア　研究公開における各班の取組、成果、課題
イ　研究公開の課題を受けて取り組んだ内容

②　成果○と課題●
○　書く力が向上し、記述する問題の正答率が高い数値となった。また、対話的活動では、まず自分で考える時間を確保することで、他の考えに流されることが少なくなった。
○　小中合同レクリエーション等を通して、自信を持ち、自己肯定感をもって取り組めた。
○　交流会での授業参観や情報交換、児童生徒の交流を通して、中１ギャップの解消につなげることができた。
●　小中連携を活性化するための体制づくりと、活動するための時間をどのように確保するかを検討する必要がある。

「３」について
①　取組事例
　教育現場において発生する様々な危険やリスクに対して、常に危機意識をもって、より安心・安全な学校をつくるための教頭としての役割
ア　各学校の取組と教頭の関り

②　成果○と課題●
○　ＳＯＳの出しやすい環境づくりに対する共通理解ができた。
○　地域と学校がこれまで以上に連携するようになった。また、取組が地域と交流する良い機会となった。
○　職員のコンプライアンス意識が向上し、遵守　活動が増加している。
●　リスク対応を年間行事に位置付けるなど、計画性をもった取組になっているか、教頭としての視点で教育課程を編成する必要がある。
●　生徒の防災意識が高まる中で、職員の意識をどのように高めていくか。
●　休日に実施した場合の生徒・職員の参加が難しい。

指導助言
・　職員のキャリアステージと実際に職員構成のギャップをどう埋めるかが課題である。校内研修の充実が望まれる。また，教頭通信なども有効である。
・　大卒の新規教員が増えてきているため、学校で教員を育成するという雰囲気を作ることが重要である。そのためにも、教員の余裕をどう生み出すか。業務改善の視点で小中連携を進めることが重要である。
・　リスクマネジメントとして、地域、保護者との連携や調整が重要である。また、地域の防災組織の中心はどこなのかを把握しておくことが重要である。